

今度の四川省の大地震ではいろいろな中国語および日本語の単語等で混乱される可能性があり、情報として次のような比較表を提出いたします。どうぞお使いください。

近畿大学理工学部 薛 松濤
神戸大学工学部 孫 玉平

1、震源地の地震の大きさ 日本名： マグニチュード 中国名： 震度

2、各地点の揺れの強さ 日本名： 震度 中国名： 烈度

日本の震度と中国の烈度の比較：

日本（2003年） 気象庁 震度 10等分

中国（1980年制定）烈度 12等分 なお、地盤加速度（単位：cm/s²）と烈度の対応は次である。

22-45=烈度 5

45-90=烈度 6

90-178=烈度 7

178-354=烈度 8

354-708=烈度 9

708-1414=烈度 10

3、汶川県について

3.1 汶川県は中国の基準では烈度7、かつ第1組と設定されている。

3.2 設計用地震加速度=0.1g

3.3 仮に第1種地盤の場合：Tg=0.25s

4、今回の地震の汶川県での烈度の予測

「前回の1976年の唐山大地震（唐山地震でははじめは烈度10とされたが、その後、11に訂正）を超えていると思われる。少なくとも、烈度10は超えている」と中国地震局 張国民先生が言っている。（薛が直接電話）。

以上